

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	名古屋大学	整理番号	G02
プログラム名称	PhD プロフェッショナル登龍門		
プログラム責任者	前島 正義	プログラム コーディネーター	杉山 直

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

【総括評価】

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、週末や春・夏の休業期間を利用して授業や海外研修を行うことで医学系や理工学系の履修者もコア能力（高度な専門性）を保ちつつもスポーク能力（専門性を活用するリーダーシップ能力）を身につけることができるよう工夫されている。また、学生間のコミュニケーションを図り異文化への理解を深めるためのプロジェクトを多用しているほか、英語研修として各学期に 60 時間の授業に加えて、希望に応じて個人指導を行うことで、学生の英語力向上が目に見える形で得られているなど、十分評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、トップ・リーダーの企業での研修などを通じた実践的な教育、これに対する学生の肯定的な評価もあり十分評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、メンター1人に、学生最大2名の濃密な指導体制を構築しているほか、アジアサテライトキャンパス学院など既存の組織を最大限利用した学生支援体制や日本人学生と留学生のシェアハウスでの共同生活により、日常的に異文化と接しながら英語で相互理解する生活環境を整備するなど十分評価できる。

優秀な学生の獲得については、正規履修生に多くの奨励金を支給することで、幅広い分野の優秀な学生を確保しており評価できる。しかし、理工系学生が少ない点については、ものづくりに強い地域特性を活かすためにも今後改善の努力が必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、2年修了時の **Qualifying Examination** により3年次以降のプログラム継続を決めているほか、学位取得に際しては、プログラム担当者が審査員あるいはオブザーバーとして本籍部局での学位審査に加わることでより学生のコア能力の達成の確認に努める仕組みが構築されており評価できる。また、ルーブリックを用いて教員が学生の学習成果を評価し、設定した各スポーク能力の各々について、自身の達成状況が見えるよう工夫している点なども十分評価できる。

事業の定着・発展については、総長のリーダーシップにより、大学全体の改革に本プログラムの要素を入れ込んで波及させていくことが示されている。また、専任職員の確保など大学の支援が整っているなど十分評価できる。